
山形大学医学部 共同研究等の募集について

(担当)
山形大学医学部メディカルサイエンス推進研究所 (研究支援課)
MAIL : ikekenkyu # jm.kj.yamagata-u.ac.jp
※ #は@に修正願います。
TEL : 023-628-5015



山形大学医学部

メディカルサイエンス推進研究所

Institute for Promotion of Medical Science Research, Yamagata University Faculty of Medicine.

企業の方へのご案内

はじめに

山形大学医学部では、所有する最先端の研究シーズを活用して、多くの企業様や研究機関様等との共同研究等を積極的に推進していきたいと考えております。
本ページは、企業様等への本学の研究テーマの提案を目的として作成いたしました。
ご興味をお持ちいただいた研究がありましたら、お問い合わせさせていただきますようお願いいたします。

研究開始まで ※共同研究の場合

①興味のあるテーマがありましたら、下記担当へメール等でお問い合わせください。

山形大学医学部メディカルサイエンス推進研究所（研究支援課）

MAIL : ikekenkyu # jm.kj.yamagata-u.ac.jp

※ #は@に修正願います。

TEL : 023-628-5015

②担当教員からご連絡させていただきますので、具体的な研究内容について打ち合わせください。
契約内容につきましては上記の事務担当者と打ち合わせをさせていただきます。

③共同研究計画書を提出いただけます。その後、学内で承認手続きを行い、
契約を締結させていただきます。

④研究費をお振り込みいただけます。

⑤研究の開始となります。

(注意事項)

- ・担当教員からの返信につきましては、業務・出張等によりお時間をいただく場合があります。
- ・本学における産学官連携の手続き等については下記のHPをご覧ください。
山形大学 産学官連携HP
<https://www.yamagata-u.ac.jp/sangaku/index.html>
- ・契約書の雛形等の様式については、最新のものをお送りしますので、前述の担当部署までお問い合わせ願います。
- ・掲載テーマ以外にも興味のある研究がございましたらお問い合わせください。

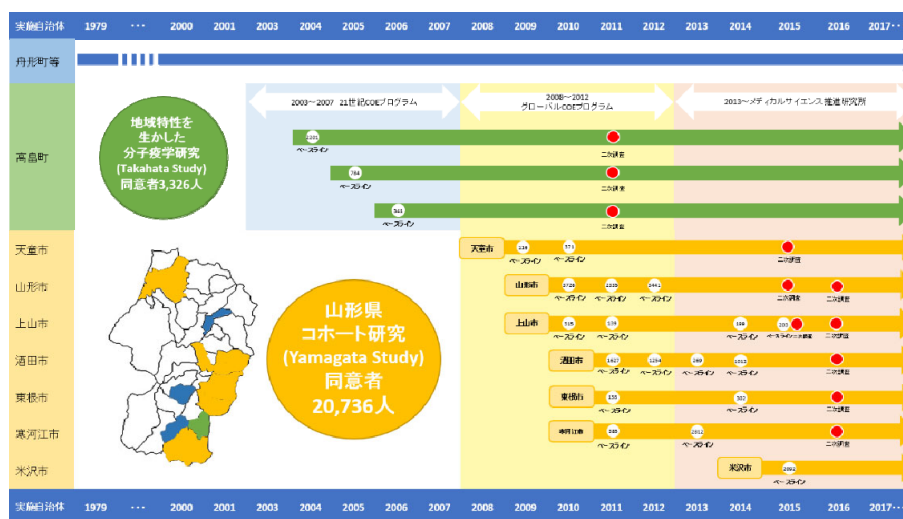


掲載テーマ一覧

- ・山形県コホート研究P1
- ・山形大学医学部附属病院における新規ロービジョンケア
機器の開発P2
- ・山形大学医学部附属病院における特殊コンタクトレンズの開発P3



山形県コホート研究



研究内容

本研究は、1979年の舟形町での糖尿病検診を皮切りに、21世紀COEプログラム（2003～2007）、グローバルCOEプログラム（2008～2012）などの大型プロジェクトを獲得し拡大してきました。

現在は山形県民約2万人超から協力を得て、追跡調査を実施しています。生活習慣・食事情報、健診検査値、疾患の発症、生命予後、医療費（今後は介護）などのデータが総合的にまとめられており、県全体や地域ごとの様々な解析が可能です。

※コホート研究ベースラインデータについてはこちらを参照ください。

産学連携の展望

- ・生活因子、遺伝素子と関連した創薬事業。
- ・コホート研究データを基にしたヘルスケア事業。

希望研究形態

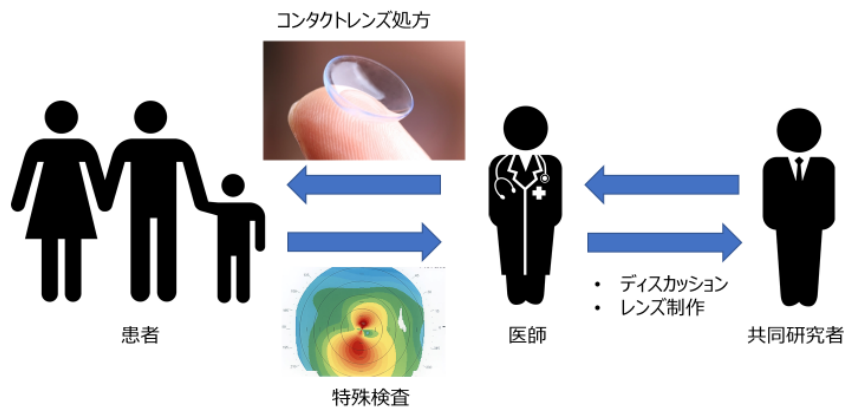
- ・共同研究、受託研究等、ご相談内容によって検討いたします。

研究者

- ・本研究はメディカルサイエンス推進研究所をはじめとして医学部全体で実施しております。研究分野に応じて、適切な研究者が対応いたします。



山形大学医学部附属病院における特殊コンタクトレンズの開発



研究内容

不整乱視は裸眼視力のみならず矯正視力にも影響を与えうる。不整乱視の原因となる代表疾患である円錐角膜では、ハードコンタクトレンズが装用できない場合、角膜移植で対応せざるを得ないのが現状である。このため新規治療法と共に、より重症例にも対応可能なコンタクトレンズが求められている。

重症例に使用可能な特殊コンタクトレンズを開発し、性能を評価、一般治療への導入を目指す。

産学連携の展望

不整乱視に対応する新規特殊コンタクトレンズの開発

希望研究形態

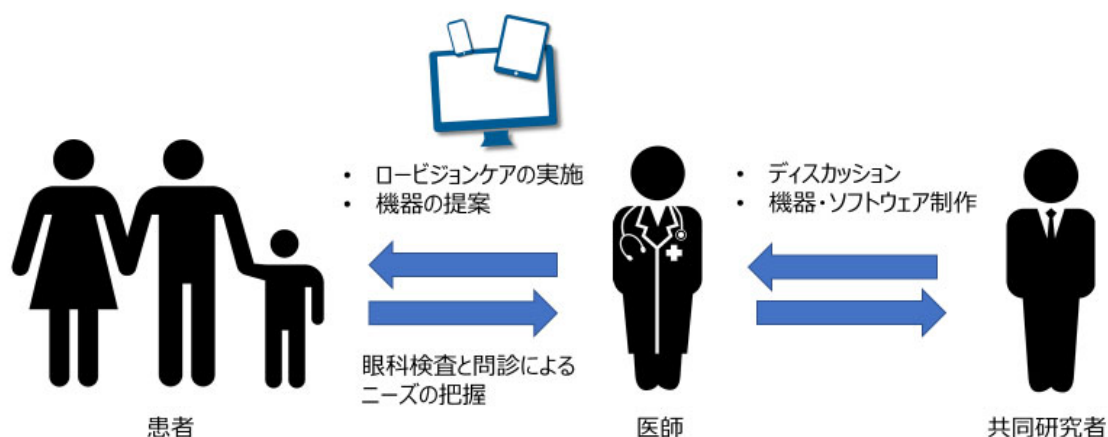
共同研究

研究者

眼科学講座



山形大学医学部附属病院における新規ロービジョンケア機器の開発



研究内容

近年の眼科医療の発展は目覚ましいが、低視力（ロービジョン）の状態となる患者は一定数存在する。現代社会では視覚情報の占める割合が多く、そのような患者にはケアが必要となる。

一方、タブレット端末や通信分野などの発達に伴い、ロービジョンケアの対応可能範囲も拡大してきている。実際の患者のニーズに合わせ、新規ロービジョンケア機器、ソフトウェア開発へとつなげていく。

産学連携の展望

新規ロービジョンケア機器、またタブレット端末などで使用できるソフトウェアの開発

希望研究形態

共同研究

研究者

眼科学講座

